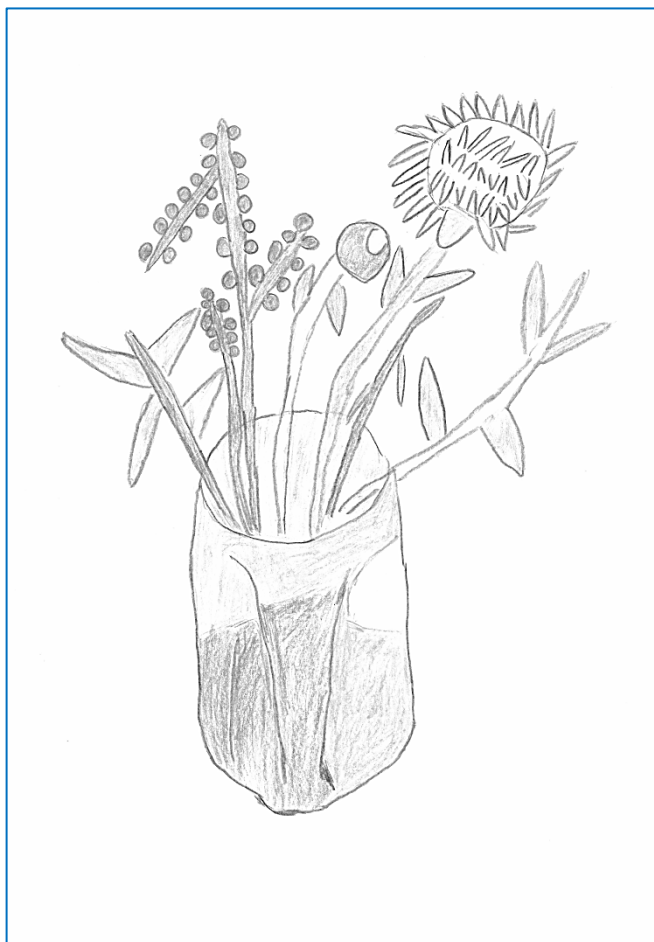


ぼうぼう通信

46号 (2021年9月)



「花」 (Y.S)



特定非営利活動法人ハートフィールド

たなし工房
グループホームわんど
相談支援センターたなし

【法人事務所】東京都西東京市田無町3-3-7-801

Tel 042-468-3061

Fax 042-452-8080

URL:<http://www.hartfield.or.jp/>

たなし工房を設立して…

特定非営利活動法人ハートフィールド
理事長 山下 實樹夫

日頃より、特定非営利活動法人ハートフィールドの活動に、ご理解とご支援をいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、この度たなし工房を開所して25年が経ちました。まだ合併する前の田無市だったころ、精神の障害を抱えた子どもを持つ家族の方々からの「退院する人や、毎日自宅での生活から一歩踏み出して通える作業所ができないか」、「生活リズムをつけていけるような作業所、また居場所としての作業所を作れないか」との声を受け、当事者の家族の方を中心に保健所の保健師さん、また各支援機関の方たちの協力を得て、開所に向けた準備を行い1996年の4月、田無駅近くの民家の1部を間借りしてスタートしました。常勤スタッフ2名と非常勤スタッフ1名で開所をしましたが、東京都の補助金と田無市より家賃の半額補助というだけでは運営がとても難しく、常勤スタッフを週4日の雇用で理解をいただき、休みの日には保健所や他作業所でのバイトなどで生計を立ててもらえるようお願いしていました。

また当時、賛助会の皆さまが、市民の方々への啓発活動と継続的な運営を行えるように、金銭面を含め色々な支援をして下さいました。当時の賛助会を支えてくださっていた方々は、田無市でとてもご活躍されていた方々で、障害当事者への理解、私たちの仕事への理解、そして私たちが見習うべき行動力があったからこそ、現在があると思っております。賛助会の皆さまの支援はたなし工房を続ける上で大きな支えでした。

現在では、皆さまのご支援の下、常勤スタッフが8名、非常勤スタッフ5名が働けるような法人となり、たなし工房だけだった事業所も、グループホームが3ユニット、相談支援センターを運営するまでとなりました。本来であれば、支えていただいた皆さま一人ひとりにお礼を申し上げなければならないところではありますが、新型コロナウイルス感染防止のため、この書面にてお礼とご報告させていただきたいと思っております。

これからも、ぜひ皆さまからのより一層の支援とご鞭撻をいただきながら、地域生活支援事業を行っていきたく思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

**精神障害者共同作業所
仮称「たなし工房」**

設立に向けてご支援を

平成7年12月

☆わたしたちの願い
障害のある人も、そうでない人も、その人らしさを認め合い、共に生きることができる共生の街づくりを願っています。
私たちは、共同作業所づくりを通して、精神障害者が理解され、暖かく迎え入れられ、必要な援助を受けられる街づくりを目指したいと思っております。

☆作業所とは
より豊かな地域生活を実現するために、作業や活動を通して
・仲間をつくり
・生活のリズムを整え
・就労への準備をするところです。

☆作業・活動内容
軽作業（新聞、雑誌の折り込み、ワープロ等）
工芸（編み物、染色、絵画等自主製作）
レクリエーション（スポーツ、料理、ハイキング、旅行等）

仮称「たなし工房」設立準備会発起人
小嶋会（田無、保谷精神障害者家族会）
石村麻子（会長）・佐藤麻子 森田静枝 松野静枝
全国精神障害者家族会認定会相談室相談員 田中麻子
世田谷区共同作業所「たなし工房」指導員 高橋麻子
東久留米共同作業所「たなし工房」非常勤職員 佐藤麻子
（オブザーバー）
山田病院 田無市福祉課 田無保健所

当時の設立準備資料より



新しいスタッフ



初めまして

和田

初めまして、今回ご縁をいただいてたなし工房で勤務することになりました。

今まで違う業種で働いていましたが、ボランティアをきっかけに福祉の世界で働きたいと思うようになりました。

コロナ禍で制限はあるかと思いますが、皆さんといろいろな話しをしたり、経験をしていけたらなと思っています。ご迷惑をおかけする事もあるかと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。



たなし工房と私

M.O

私が「たなし工房」に入所させていただいてから、17年の歳月が過ぎ去りました。そして「たなし工房」は、精神的に未熟だった私を、人間的に成長させてくれた場です。

入所当初、私は工房で通所するにあたり、頻繁に遅刻、欠席をしたり、問題行動を起こしたりなどして、工房のスタッフに対しても、メンバーに対しても迷惑を掛けてしまったことが、度々ありました。ですが、工房のメンバーとの交流によって得た刺激やスタッフの方々の助言を励みに、私は自分を変える努力をし、勝手な考えではありますが、私は、ある程度は成長出来たのではないかと自負しているところです。また、私は17年も工房に在籍しているので工房にまつわる数々の思い出もあり、特に入所当時を思い起こすと感慨深いものがあります。

最後に、欠陥だらけの私を温かい目で見守ってくれる工房のスタッフの方々には、感謝の念に堪えません。

イチョウは臭いのになぜ愛される

Y.E

いくらなんでも銀杏臭過ぎる。日本の街路樹で一番多い。2億年前、中生代ジュラ紀、恐竜が地球を支配、イチョウが誕生、オス、メスがある。小石川公園で精子が発見された、銀杏がなる木と、ならない木がある。精子はもともとオスが作る細胞だがメスの中でゆっくり作られる。胚珠がふくらんで銀杏になる。

コロナ禍の生活

H. I

緊急事態宣言が発令されている東京での生活スタイルがだいぶ変わったような気がする。たなし工房でのレクリエーションはほぼなくなり、作業の時間の短縮等もあり自宅にすることが増えた。3年前に禁煙をしてから同時にお酒も飲まないようになったが、最近家で少しだけお酒を楽しむ。でもやはり一人で飲むのは少し寂しい気がする。

今後、コロナの波が収束したら、工房のメンバーさんやスタッフの方々とお酒を飲みつつ色々な話をしながらの会食を楽しみたいと思う。

一日も早く世界中で猛威を振るってるコロナが収束するようになるといいな、と祈らずにははいられない。

ATM の清掃

Y. T

最近になって、田無駅と LIVIN の中にある、ゆうちょ銀行の ATM の清掃のお仕事を始めました。

最初は自分にできるのかが心配でしたが、少しずつやっていくうちに、慣れてできるようになりました。これからもがんばっていきたいと思います。

父の影

最終話

かぜのなまえ

その一方で間の抜けたところもあった。父の友人の話だが、父がまだ下宿していた時だ。友人の電話を大家さんから受け取った父は、じつと黙っていた。友人も面白がって黙っていた。しばらくして父は、「おばさんこの電話壊れているよ」と言ったそうだ。私が中学のとき、その友人は面白そうに話してくれた。

父の話をもっと聞いて置くべきだった。母が死んだとき後悔した。母が言うには昔の事はあまり話さなかったようだ。戦争の事にしろ、南瓜ばかり食べていて肌が黄色くなったと言うような事しか知らない。それも母からだ。

父が具合が悪くなった時は、本当に自分の事しか頭に無かった。父が入院した間母が付き添い、独りで家にいた。近所の人たちが夕食をご馳走してくれたが、感謝の気持ちも無かった。今はまだ増しになっただろう。大学卒業後、アルバイト先で苛められた。そんな私の面倒を見てくれた母も居ない。変わりに兄がしようがないと言いながら、付き合っている。

ボランティアを通して仲間も出来た。メンバーのことを考えながら、普通とは何かと考える。私は普通に成りたかった。普通に暮していれば楽に思えたからだ。在る自閉症の男の子の母親は、その子為りの普通が在ると言っていた。そうかも知れない。私は私なりの居場所を見つけたような気がしている。それは私が願う普通の暮らしではないが。父が毅然としなさいと言っていた。父の言っていた事が解るような気がする。自分の世界を大事にし、相手も大事にする事ではないか。

(了)

～グループホームわんどの「んど」だより～

わんどのお話の前に、たなし工房が25年経ったということで、開所当時を少し振り返りさせてください。工房を最初にスタートさせた建物は、大家さんが住んでいる一軒家の3室のみの使用ということでした。古い由緒ある家で仕切りは障子と唐紙でした。大家さんと共用で使う廊下もあって、慣れない人は大家さんのこたつに入ったりしていました。大家さんの奥さんに度々「駄目だよおーたなし工房さん」と怒られてました。何を叱られたかは忘れましたが、夏の暑さや冬の寒さをどうしのいだのかも、みーんな忘れてしまいました。毎日が混沌の中手探りの運営でしたが、新しい物を作っていく楽しみの日々だったように思います。その頃のたなし工房をジャングルのような方と言った方がいますが、色んな人が色んな居方で時間を過ごしました。25年の時の流れは、福祉の在り方を大きく変え、良くなった点もありますが、私としてはあの自由で、ちょっとメチャクチャで混乱の多い、作業所時代は良かったなって思います。思い出だからでしょうか？

郷愁話はこれくらいで、わんどのお話です。わんど3をオープンして1年になろうとしています。メンバーが6人増え、常勤スタッフが1名増えただけなのですが、なんとも慌ただしく気ぜわしい日々です。コロナの中ですが、初めての第3者評価と言うものを受けました。管理者という立場になって10年になろうとするのに、いかに自分に経営という視点がなく、物事を系統だてて考えて文章化したりする能力がないかを、痛切に感じさせられました。一方で、こんなことがしたくってこの仕事をしてるのではないのにも思ったりもしています。(反省のない人間ですいません)グループホームって誰のために、何のために必要な制度なのかと改めて考えてしまいます。利用者の方の希望やニーズと、運営側上での支援の在り方や決まりが、上手く一致できると良いのですが、なかなかそうはなりません。お互いの折衷案(この表現が適切かはわかりませんが)を日々模索していると言う所です。お時間のある方は、わんどの第3者評価を見ていただいて、お気づきになられたこと、改善点などあれば、ご助言いただけると有難いです。

(白倉 悦子)

初めました

(M)

わんど利用は2回目ですが、本格的に利用し始めたのが今回(7月)からです。

皆様とはコロナの影響でなかなかお会いする機会もないのですが、宜しく願います。

はじめまして、5月に入居したものです。
入院生活が長かったので体が筋肉痛であちこち痛いです。どうぞよろしくおねがいします。

(T.M)

わんどに入居して

Mikey

私はわんどに入居して初めて1人暮らしを経験しました。
最初は、1人暮らしなんて本当に出来るのか不安でしたが、スタッフの方々に支えられて今の生活が成り立っています。
お薬の飲み忘れがないかチェックしてもらったり、毎日、大変ですが何とか生きています。だけど、気づいたのですが、スタッフの方々が居て本当に良かったです。いつも助けられています。ありがたいです。本当に、ありがとうございます。

時々、幻聴が聞こえたりもするのですが、そんな時は薬を飲んで
います。1人で、辛いと思う事も正直有ります。だけど、1人で生きていくために今から、頑張っています。

～．．．～．．．～．．．～．．．～ お知らせ ～．．．～．．．～．．．～．．．～

○ NPO 法人ハートフィールド賛助会費納入のお願い

今年度（令和3年4月～令和4年3月）の賛助会の年会費を受け付けています。
郵便局の口座にお振込みいただくか、法人事務局にてお支払いいただけます。
個人会員は1口 1,000円、法人会員は1口 5,000円でともに1口以上。正会員の方は1口2,000円となります。同封の振込み用紙をお使いいただくと手数料がかかりません。なお、3年以上会費の納入が確認できない場合には、自動的に退会となりますのでご了承ください。

<振り込み先>

郵便局 口座番号 00180-4-707236
加入者名 特定非営利活動法人ハートフィールド

いただいた賛助会費は機関誌の発刊代金や送料、また各事業所の運営費の補助費に使わせていただいております。利用者が多くの経験を積むことで、人生の楽しさや生きがいを見つけることができたり、マナーなどを得、より豊かな地域生活を送れるような活動に、賛助会員費を使用させていただいております。